

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 10月7日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670102674号
法人名	株式会社サンライトメディカル
事業所名	グループホームやすらぎの家
所在地	鹿児島市高麗町22-16 (電話 099-253-7575)
自己評価作成日	平成27年8月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年8月18日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、ご家族様と共に悩み、助け合い、共に楽しみ笑いあえるような雰囲気作りを心掛けています。目の前に公園があり、リビングや居室から眺めると子供たちが遊んでいる風景、季節ごとに変わる、木々、草花に生活空間が広がり、開放的な気分になれる。関連の福祉施設の協力のもと、ドライブ、お寺参り、バザー、夏祭り等参加し交流の機会を設けたり、近所のグループホームとの交流を行い、合同演芸会など楽しんで頂いています。管理者は、月1回管理者会があり意見交換を行い、より良い介護支援に努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは鹿児島市の市街地に位置し、周囲には公園や学校、商店並びに協力医療機関、系列のグループホーム等がある。協力医療機関や系列の施設と連携を密に図り、特に利用者の健康管理と安全確保に重点を置いて、日常のケアの充実に管理者と職員が一体となって取り組んでおり、ご家族の安心にもつながっている。

○地域との関わりも大切に考え、自治会に加入して地域の行事や清掃活動に積極的に参加し、ホームの催しにも地域住民の方々に参加して頂くほか、近隣の他施設との交流や利用者の家族・知人の来訪も多く、利用者はこれらの機会を楽しみにしている。

○ご家族との連携も密接で、来所時の対話を始め年2回の家族交流会、また、餅つきの際には非常に多くのご家族の参加があり、話しやすい雰囲気作りに努めて多くの意見を頂いている。意見や苦情については職員が共有し、速やかに対応・報告し、ホームからご家族宛の毎月のお便りでも連絡している。

○管理者は職員に対して日常的に声かけや問いかけを行い、話しやすい雰囲気作りに努め、日頃から職員と密にコミュニケーションを図っている。職員同士の連携も良好であり、毎週の定例会でもケアに関する意見交換は活発で、これらを検討して業務やサービス内容の具体的な改善につなげている。

また、法人内の研修も積極的に実施されており、認知症ケアや重度化した場合の支援など、多くの研修テーマを設定して熱心に職員の育成に取り組み、より良いケアの実現に管理者と職員が一体となって努力している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	グループホームやすらぎの家の理念を常に意識し目の付きやすい所リビングに提示、常に意識しネームプレートに理念・基本方針を記入し、定例会でもスタッフ全員で唱和を行いながら話しあっています。	理念とともに基本方針も掲げて、地域に溶け込んだ暮らしを目指し、笑顔でその人らしく楽しく過ごせるように日々のケアに取り組んでいる。名札への記載や掲示、定例会での唱和により理念の共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	リハビリの行き帰りや散歩の際、近所の方々との朝、夕の挨拶や声かけを行い、地域との繋がりを日常的に行っている。	町内会に加入して地域の祭りや清掃、小学校のバザーなどに参加し、公園等での散歩やリハビリの行き返りに出会う地域の方への挨拶や会話などにより関係づくりに力を入れている。ホームの夏祭りや年2回の餅つき等にも地域の方々に参加頂いている。利用者の知人や家族の訪問も頻繁にあり、利用者は交流を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ご家族向けに作った認知症の理解を深めて頂く為の資料を見学者様に差し上げている。ボール遊びやカラオケを楽しんだり、バザー出品の活動を観て頂く事でどのような施設であるのか理解して頂く。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に於いて外部評価の結果を報告し今後の取り組みについて話し合いをしたり、その場で取り上げられた事項について経過を報告しサービス向上の手がかりにしている。	利用者や家族、民生委員、消防・地域包括センターの職員等関係者が参加して定期的開催されている。ホームの現況報告や行事・問題点等についての意見交換のほか、感染症対策や災害対策の向上、認知症ケアなどの話し合いも行われ、具体的に運営やサービス向上に反映されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員の受け入れにより入居者様の希望や意見を参考にしてサービスの質の向上に役立っている。包括支援センターの方、民生員、ご家族様、消防署の方々との交流を図り協力を頂いている。	介護相談員の受け入れを行い、市担当窓口や包括支援センターなどへ事務手続きやその他の機会に訪問し、問題や事故、認定手続きなどの情報交換を行い助言や意見を頂くなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についてのマニュアルを整備し、定期的に身体拘束、虐待についての学習を行っている利用者様本人の意思や身体状況を考慮し、利用者様に、心身共に苦痛を与えないよう配慮した介護を心がけている。	職員は連携を図りながら見守りの徹底に努めている。特に言葉をさえぎることや気持ちの押さえつけ・行動制限の防止には、日々のケアの中や申し送り、定例会や研修等を通じて繰り返し協議して理解を深めると共に、安全確保やその人らしい暮らしを支援するケアへの反映が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様、一人ひとりの人格を尊重しこれまで培われた人生に対し尊敬と敬意、慈しみの気持ちを持って支援している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を設け、制度について職員間で説明を行っている。実践に当たっては、管理者を中心にケースごとについて話し合いながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居相談の際、見学をして頂き当施設の説明と共に、他施設の見学を勧め、ご本人様に適した施設選びをして頂けるよう助言を行っている。再度訪問された際改めて質問点、疑問点にお答え出来るよう準備し、連携を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様訪問時、利用者様からの希望、要望等の確認を伺い、施設内の各階に意見箱を設置して意見を取り入れる工夫を行っている。又年2回の家族交流会や2か月毎の運営推進会議に参加して頂き意見交換を行い、職員のスキルアップに繋がっている。	利用者の思いや意見を日常会話や表情の見守りなどで把握に努めると共に、個々に聞き取る工夫も行なっている。ご家族からの意見や要望は訪問時や電話連絡時、また、年2回の家族交流会や運営推進会議で多くの意見を頂いている。日常的には申し送り時や定例会等で情報共有し、必要な対応を話し合い、速やかに結果も報告してケアに具体的に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の業務の中で、ミーティングを行い利用者様の支援についての対応策等、意見交換を行い、改善やレベルアップに努めている。	管理者は、日常のミーティングや申し送り、また、定例会や勉強会等で職員の意見や提案を聞き取ると共に、頻繁に声掛けや問いかけを行い把握に努めている。得られた意見や提案を、具体的に業務改善やサービス向上につなげるように取り組んでいる。また、職員の資格取得も積極的に支援しスキルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、職員の勤務状況を把握し、貢献年数により表彰している。また、職員の意見の相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護支援専門員協会、社協の主催する研修など積極的に受講すると共に月1回職員研修を行っている。職員は、資料、議事録をいつでも内覧出来るようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連グループホームの管理者間で事例の検討など行う事で質の向上に役立てている。訪問看護、病院との三者連携を取っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する相談があった時点でご本人に面会して入居に当たり心身の状態や思いを傾聴し、希望に沿った安心できる介護を提供できるよう声かけや機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や見学に訪問された際にご家族様が抱える苦労や不安など暖かい気持ちをもって聴くようにしている。入居予約後も定期的に、状況を伺い信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、緊急性の有無を確認しご家族様の意向に沿えるよう柔軟な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、テーブル拭き、食後のお盆拭き、ビニール袋の収納等、リハビリを兼ね皆様方それぞれが出来る範囲で、お手伝いして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行している「やすらぎ通信」を通じて本人様の生活の様子、状況の確認と理解をして頂き、利用者様が安心できる生活を、ご家族様と共に支えていくように、努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の多くが、近辺の地域に暮らしておられた方々で気軽に面会に来て下さる。定期検診やリハビリの帰りを利用し、近くのスーパーや近辺を散歩し思いを巡らして頂ける様支援している。	利用開始時のほか家族や友人・知人の来訪時に本人を取り巻く人間関係などを聞き取り支援に活用している。車いすも利用しながら買い物やお寺参り、ドライブ等に職員が同行し、一時帰宅や法事、外食等はご家族にお願いしている。また、家族との電話や家族・知人の来所時にはゆっくりとくつろげるように可能な支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者様方の毎日の状況を把握し、声かけ、傾聴を行い、レクリエーションや行事を通して利用者様同士の連帯感が持てるよう、間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状、暑中見舞いを差し上げることで、近況を知らせて下さっている。場合によっては、電話をさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の行動や、表情、言動の中から訴えの真意を察し、職員一人ひとりが状況を共有し同じ方向性で支援できるよう努めている。	利用開始時の利用者本人や家族からの聞き取り情報や、日々の暮らしの中ではゆっくり話すことや表情などから、利用者の思いや意向の把握に努めている。これらの情報は、申し送りや定例会等で共有を図り、必要な対応を検討し、利用者本位の支援に結びつくように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、福祉関係者よりサービス利用の経過、生活歴の情報交換を行い、性格、生活環境の把握に努め、スタッフ間で共有し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活のリズムや心身状態の把握に努め、出来る事、出来ない事を見極め支援するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週、定例会を開き一人ひとりの問題点をあげ本人、ご家族様主治医はじめ関係者、スタッフ間で、意見交換を行い、モニタリングし、本人に適した介護計画を作成している。	本人や家族の意向や希望、主治医や看護師を始めとした関係者からの情報を基に、職員全員で十分な意見交換を行い、職員の意見やアイデアも反映したきめ細かなわかりやすい介護計画を作成している。経過はモニタリングシートや支援経過記録に具体的に記述し、毎週の定例会等で十分に話し合い、計画の見直しや修正を適切に行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、夜勤簿、個別記録の確認、申し送り等。職員間で情報交換を行い、共有し把握に努め、支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関や利用者様、ご家族様の希望する、かかりつけ医と連携を図り、受診の際は送迎、付添など、臨機応変に支援し利用者様、ご家族様の満足感が高められる様努力している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様と地域との様々な接点を見だし地域の中でその人らしく生活出来る様、民生員、消防、警察の方々と意見交換の場を設定し安全で豊かな生活を楽しんで頂ける様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の意向を確認し協力医療機関やかかりつけ医との連携支援、他医療機関受診の要望があれば、同意を得たうえで職員が代行で付添い支援している。	一人ひとりの利用前の受診状況を十分把握し、家族や医師との連携を密にして月2回の受診を適切に支援している。専門医の受診はご家族にお願いしているが、必要に応じて職員も対応している。協力医療機関が近隣にあり、緊急時にも適切な医療が受けられる状況である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	血圧や体温の異常、普段と違う心身の変化に気付いた時は、早急に連絡を取り、指示を仰ぎ適切な対応を行える様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療が受けられる様、病院の主治医、相談員と治療計画、退院の目途など情報交換を行い、利用者様、ご家族様に納得出来る様説明を行っており、退院後も助言を頂きながら支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で終末期のあり方について、ご家族様、主治医、看護師職員を交えて話し合いの場を設け看取りについても説明を行っている。運営推進会議、家族交流会に地域の方に参加して頂き、情報を共有し、支援に取り組んでいる。	重度化や終末期のケアについては、方針を文書にして入居時に利用者と家族に十分な説明を行っている。利用者や家族の思いや状況の変化に応じて、職員やかかりつけ医及び看護師、ご家族と十分な話し合いを行い、適切な支援が提供できるように体制を築いている。関連するマニュアルの整備や研修も充実させて職員の理解促進にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、職員研修を行い、周知徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署、SPRビルシステム会社の方々の協力を得避難訓練(日勤帯、夜勤帯想定)を行っている。同時に避難経路確認や消火器の取り扱いの確認を行っている。関連施設、近隣の方々の協力をお願いしている。</p>	<p>年2回は消防署の協力を得ながら消火訓練・避難訓練を実施すると共に、現在は自主訓練も検討している。また、消防設備の定期点検や運営推進会議での消防署職員からの指導も実施されるなど災害に対する意識は非常に高い。自動通報装置やスプリンクラーなどの設備の充実、食料や飲料水の備蓄も問題はない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者様の個人情報の守秘義務を厳守し、入浴介助や排泄介助、その他の生活介助について、人格の尊重、プライバシーの確保に努め、言葉かけや対応をしている。	個人情報保護や接遇研修等の充実を図り、ミーティング等を通じて利用者の尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応の防止に努めている。日常のケアに際しても言葉遣いや声かけを工夫し、きめ細かな観察や個人記録の取り扱いにも十分配慮して、利用者的人格や感性を大切にされた対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思、言葉で自分の思いを表現して頂ける様「決めつけ」ではなく「選択肢」で促し、自己決定出来る様配慮している。。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送ってほしいとのご家族様の希望を踏まえ、生活リズムに配慮しながら、本人の気持や希望に添った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節感や好みの服装を、考慮して清潔な身だしなみを心掛けている。整髪は、訪問して頂き本人の希望に添うよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや、健康状態を考慮し、季節を感じて頂ける様旬の食材を提供し楽しい食事が出来る様工夫している。調理、片づけは、出来る事を一緒に手伝って頂いている。	現在は食事の後片付けが主体であるが、利用者と一緒にできる事を支援している。旬の食材を利用し、好みを献立や味付けに反映させ、体調にも配慮した食事を提供している。また、季節の行事食のほか、誕生会のケーキ、十五夜のだんごやおはぎ、敬老会の紅白饅頭、夏祭りのかき氷等多くの工夫を行い利用者の楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量チェックを行い、お茶以外の好みの飲み物を提供し水分不足の防止に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人ひとりの状態に応じて毎食後の口腔ケアを習慣づけ、口腔内の清潔保持の支援を行っている。必要に応じて歯科往診を依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い排泄のパターン、習慣を把握し、トイレ内の排泄を促し、自立支援に向けた支援を行っている。	利用者の様子観察や排泄チェック表を活用し、利用者個々のリズムを把握して、可能な援助方法を検討して排泄の自立のための支援を行っている。また、利用者個々に合わせた排泄用具等の使い分けなどの工夫もプランに組み込み、言葉かけを始めとして羞恥心や不安の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、繊維製食品の摂取を心掛け、レクリエーションに適度の運動を取り入れ便秘の予防に努めている。状況によっては主治医に相談、服薬コントロールを行い、便秘予防の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調を考慮して、希望に添って入浴を楽しんで頂いている。又体調不良時は、清拭を行い清潔保持の支援を行っている。	利用者の希望に応じて、利用者の安全には十分に気配りしていつでも入浴できるように配慮している。利用者の状態に応じて清拭や足浴などへ切り替えも含め、また、リンス等も好みに合わせ、ゆっくりと対話しながら入浴を楽しんで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子をみて、必要があれば午睡をとっている。夜間は利用者様それぞれの状況に合わせて照明の調節等を行い、安眠出来る様支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様個別にファイルを作り理解を深めている。服薬変更があれば、申し送り、状況把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの状況を把握し、好きな事、得意な事、スタッフと一緒に出来る事を取り入れ、楽しみながら気分転換を図れる様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	リハビリや定期検診の機会に、希望があれば近くの公園、近隣の散歩を行っている。家族と連携し外出、外食の機会を設けている。	利用者の健康状態や天候を見ながら、本人の希望に沿って、ホームの周辺や前の公園での散歩や日光浴、近隣のドライブ、お寺参りなどに出かけている。時々公園で近隣の方々と挨拶や会話が交わしている。年に数回は、法人合同の行事や近隣の施設との交流も支援している。ご家族の援助のもとでの外食や買い物、一時的な帰宅、法事等の外出も勧めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族、本人納得の元、金銭預かり、収支状況等、個人のお小遣い帳を作り、通信にて報告している。金銭の使用については、そのつどご家族に了承を得ている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望があれば、いつでも電話や手紙を書ける状況を作り、プライバシーに、配慮して支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節を感じて頂ける様、玄関、リビング、ローカの飾りつけなど工夫し、一緒に飾り作りを行っている。居室は、以前使っていた馴染みのある家具や、日用品を持って来て使って頂いている。</p>	<p>リビングは広く明るく、ゆったりとした畳のスペースや神棚・仏壇等が配置され、周囲には利用者と職員が共同で作成した飾りや小物などが飾られている。談話室にもテーブルや椅子が置かれ、家庭で過ごすように静かにくつろげる環境になっている。利用者にとって不快に感じる音や臭いなどは感じられず、空調も含めて気持ちよく過ごせるように配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには、各自専用の席があり、自由に場所を変える事も出来る。リビングのほかに和室も自由に使う事が出来る様、支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ、家具、日用品を配置して、ご家族様が訪問された際、居室で違和感なく楽しく過ごせるように、工夫している。	居室は窓も広く明るく、ベッドや洗面台・エアコンが置かれている。また洋服掛けや衣装ケース、写真や小物、身の回りの日用品等は、希望のものを自由に持ち込んでもらい、自分の部屋として落ち着いて過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場、トイレ等場所が解りやすい様に、プレートで表示し、リビング内の席も、安全に過ごせる様整備している。	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない